

整形外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究にかんする倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

また、対象となる患者さんで研究参加を拒否したいと思われた方も、以下の「問い合わせ先」までご連絡下さい。その際には、研究の対象とはしないように致します。

[研究課題名] 四肢遊離皮弁において口径差を有する静脈吻合に対する大きな開窓を用いた端側吻合法の有用性

[研究機関] 帯広厚生病院整形外科

[研究責任者] 本宮真（帯広厚生病院整形外科手外科センター長）

[研究の目的] 四肢における遊離皮弁術は、四肢軟部組織欠損創を被覆する上で、非常に有用な手術治療です。動脈と静脈を吻合して皮弁を生着させる必要がありますが、皮弁の失敗の原因として静脈閉塞が大きな問題となっております。特に細い静脈で皮弁とレシピエントの血管の口径差が大きな場合には閉塞する可能性が高いと考えられており、その場合には通常の端端吻合ではなく端側吻合の手技を用いて血管吻合を行います。しかし、端側吻合は手技が難しいとされ、細い血管に対しては一般的に普及しておりません。我々はこれまでにレシピエント血管を大きくスリット状に開窓する簡便な方法を開発し、有用性を報告してきました。今回、当科で施行した四肢遊離皮弁術の口径差のある静脈吻合において、我々の用いてきた大きな開窓の端側吻合により静脈吻合をおこなった症例の治療成績を調査し、有用性を検証することを目的としております。

[研究の方法]

●対象となる患者さん：2015年4月から2021年9月までに当院整形外科にて、四肢軟部組織欠損に対して遊離皮弁を受けた患者様のうち、口径差のある端側吻合法を静脈吻合に用いた患者様を対象としております。

●利用するカルテ情報

- ①年齢、性別、病歴情報
- ②皮弁の情報・手術の内容
- ③皮弁の成績と合併症

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌等で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 北海道帯広市西14条南10丁目1番地 電話 0155-65-0101
整形外科 担当医師 本宮真